

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 留意事項

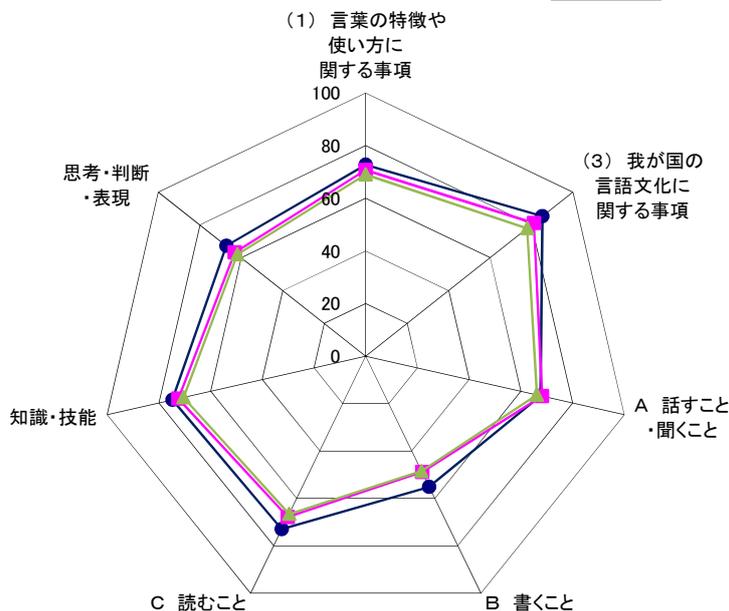
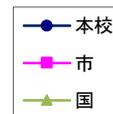
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.7	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	67.6	68.2	66.2
	B 書くこと	55.1	48.9	48.5
	C 読むこと	73.0	67.9	66.6
観点	知識・技能	74.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	67.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

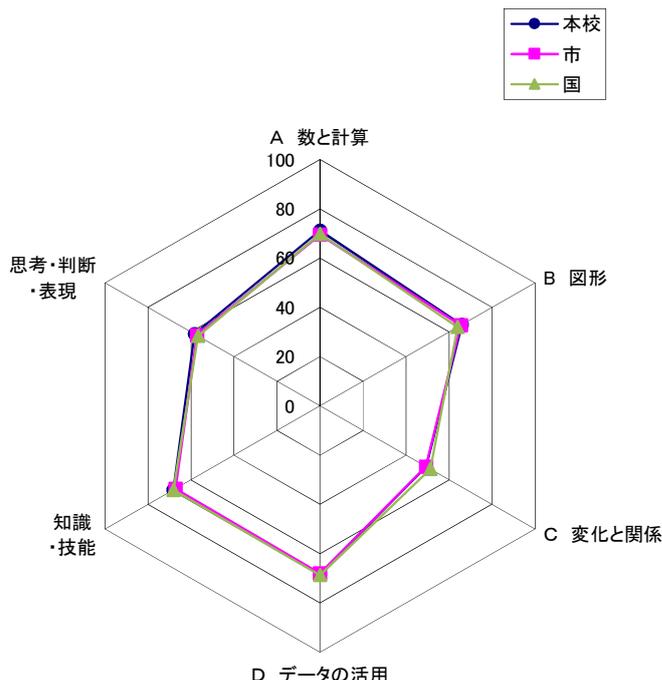
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は72.7%であり、全国平均より3.7ポイント上回っている。</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題においては、正答率が71.6%で、全国平均より2.8ポイント上回った。</p> <p>●話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題では、正答率が85.2%で、全国平均を0.3ポイント下回った。</p>	<p>・同音異義語の意味を理解するだけでなく、話し言葉では、同音異義語は誤解されやすいということにも気付かせるとともに、どのような話し言葉を使えばよいか考え、使うことができるように指導する。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は85.2%であり、全国平均より7.3ポイント上回っている。</p> <p>○漢字やかなの大きさ、配列に注意して書く問題において、正答率が85.2%で、全国平均より7.3ポイント上回った。</p>	<p>・全国平均を下回ったものはなかったが、読みやすい文章にするための工夫を捉えることに苦手傾向が見られるため、筆順に従って描くことや、文字の大きさ、配列に注意して書くことなどが大切であることに気付かせるとともに、どのような書き方すればよいかを考え、書くことができるように指導する。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は67.6%であり、全国平均より1.4ポイント上回っている。</p> <p>○話すこと・聞くことにおいて全ての問題において正答率が全国平均より上回った。</p> <p>●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題においては、正答率が47.7%で、全国平均と同じであった。</p>	<p>・全国平均を下回ったものはなかったが、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることに苦手傾向が見られるので、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点をまとめたり、自分の生活経験等と結び付けて考えを深められるように指導したりする。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は55.1%であり、全国平均より6.6ポイント上回った。</p> <p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える問題においては、正答率が67.0%で、全国平均より7.8ポイント上回った。</p> <p>●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題において、正答率が43.2%で全国平均より5.3ポイント上回っているものの、全体から見た正答率は低い。</p>	<p>・文章全体の構成や展開を考えることに苦手傾向が見られるので、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見が区別されているかなどの視点で文章を整える機会を設け指導する。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は73.0%であり、全国平均より6.4ポイント上回っている。</p> <p>○読むことにおいて人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題においては、正答率が80.7%で、全国平均より12.4ポイント上回った。</p> <p>●登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える問題においては、正答率が68.2%で、全国平均より0.2ポイント下回った。</p>	<p>・登場人物の相互の関係や心情について描写を基に捉えることに苦手傾向が見られるので、複数の叙述を結びつけ大切な言葉を捉え、気持ちを想像する機会を設け指導する。</p>

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.2	69.5	69.8
	B 図形	65.9	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	49.4	49.3	51.3
	D データの活用	68.2	68.0	68.7
観点	知識・技能	68.3	67.3	68.2
	思考・判断・表現	58.3	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

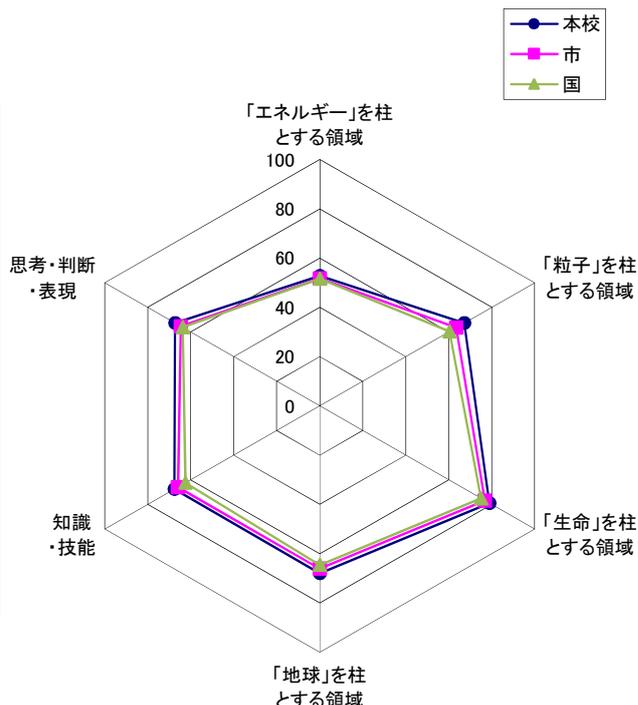
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>領域の平均正答率は71.2%と全国平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>○85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題では、全国平均を10.7ポイント上回っているものの、正答率は45.5%と低い。</p> <p>●表のある項目に当たる数を求める問題では、正答率が70.5%と、全国平均を4.8ポイント下回った。</p>	<p>・問題場面に合わせて数を大きくみたり、小さくみたりするなど、概数を用いた目的に合った処理の仕方を身に付けられるよう指導していく。</p> <p>・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることに苦手傾向が見られたので、表の各欄と合計欄の意味を理解して立式し答えが求めたり、表を読んだりすることができるよう指導していく。</p>
B 図形	<p>領域の平均正答率は65.9%と全国平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>○長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く問題では、正答率が86.4%と全国平均を3.2ポイント上回った。</p> <p>●示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題では、全国平均を0.1ポイント上回ったものの、正答率が48.9%と低い。</p>	<p>・正三角形の性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさから言葉と数を用いて記述することに苦手傾向が見られたので、図形を構成する角の大きさや向きに着目し、正しく図形を構成できるよう、作図の仕方を筋道立てて説明する活動を多く取り入れ、定着を図っていく。</p>
C 変化と関係	<p>領域の平均正答率は49.4%と全国平均を1.9ポイント下回った。</p> <p>○果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの果汁の量を書く問題では、正答率が68.2%で、全国平均を3.6ポイント上回った。</p> <p>●果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く記述式の問題では、正答率が40.9%と全国平均を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・数量が変わっても割合は変わらないことや、伴って変わる二つの数量の間にある比例の関係を用いて未知の数量を求めることなど、日常の具体的な場面に対応させながら理解できるよう、意図的に解決場面を設定するなど指導を工夫していく。</p>
D データの活用	<p>領域の平均正答率は68.2%と全国平均を0.5ポイント下回った。</p> <p>○分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように遊びを選ぶ問題では、正答率が67.0%と全国平均を3.1ポイント上回った。</p> <p>●1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ問題では、正答率が67.0%と全国平均をわずかに0.2ポイント上回り、全国平均とほぼ同等であった。</p>	<p>・表から必要なデータを収集し、数量の関係を式に表すことに苦手傾向が見られたので、問題場面から立式するまでの過程を言語化して表現できるよう、意図的に解決場面を設定するなど指導を工夫していく。</p>

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.8	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	67.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	78.9	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	68.0	66.1	64.6
観点	知識・技能	67.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	67.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は52.8%と全国平均を1.2ポイント上回った。</p> <p>○実験結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題では、正答率が81.8%で、全国平均を7.4ポイント上回った。</p> <p>●光の性質を問う問題では、正答率が全国平均を0.6ポイント上回ったが、正答率は28.4%と低かった。</p>	<p>・習得した知識を、学習場面とは異なる場面で活用することに苦手傾向が見られるため、学習内容と生活の中でのように生かされているかを考える活動を設定するなど、指導を工夫していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は67.3%と全国平均を6.9ポイント上回った。</p> <p>○水溶液の凍り方について、実験結果を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題では、正答率が75.0%で、全国平均を12.2ポイント上回った。</p> <p>●自然の事物・現象から問いを見出す問題では、正答率が全国平均を11.8ポイント上回ったが、正答率は51.1%と低かった。</p>	<p>・習得した知識を活用しながら新たな問題を見つけ出すことに苦手傾向が見られるため、比較の考え方を働かせながら自然の事物や現象を見つめ、差異点や共通点を捉えて問題を見出す活動を設定するなど、指導を工夫していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は78.9%と全国平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>○複数の観察記録を基に、問題に対するまとめを書く問題では、正答率が76.1%で、全国平均を8.6ポイント上回った。</p> <p>●二次元表から気が付いたことを基に、問題を見出す問題では、正答率が59.1%で、全国平均を6.4%下回った。</p>	<p>・情報を複数の視点で分析したり、的確に把握したりすることに苦手傾向が見られるため、実験や観察の結果から差異点や共通点を見出し、それらを基に情報を分類する活動を設定するなど、指導を工夫していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は68.0%と全国平均を3.4ポイント上回った。</p> <p>○他者の予想を基に、記録の結果をグラフを見通して選ぶ問題では、正答率が75.0%で、全国平均を10.5ポイント上回った。</p> <p>●提示された結果と考察の関係を分析する問題では、正答率が全国平均を3.4ポイント上回ったが、正答率は48.9%と低かった。</p>	<p>・提示された資料を分析し、自分の考えをもつことに苦手傾向が見られるため、資料を分析するための視点を示したり、数量、変化の大きさなどの特徴を読み取る場面や、資料から結論を導き出す中で他者との意見交換をして多様な考えに触れる活動を設定したりするなど、指導を工夫していく。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問に対する肯定的回答率は97.8%で全国平均より3.4ポイント上回っている。このことは、本校の食に対する日常の指導や、家庭の協力による生活習慣の育成への意識の高さと児童への支援の成果であると考えられる。

○「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問において、国語に対する肯定的回答率は97.8%で全国平均より6.0ポイント、算数に対する肯定的回答率は97.8%で全国平均より4.5ポイント上回っている。今後も、多様な学び方を取り入れ、児童が将来を見据えて意欲的に学習に取り組めるようにしていく。

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問に対する肯定的回答率は76.1%で全国平均より3.6ポイント上回っている。これからも、活躍できる場面を意図的に設けていき、様々なことに挑戦させたり、成功体験を味わわせたりしていく。

○「5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」の質問に対する肯定的回答率は78.3%また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に対する肯定的回答率は83.7%で、ともに全国平均より10.0ポイント程度上回っている。今後も自分の考えを書いて説明する活動やペアで意見交換する学習を展開し、児童の思考力・表現力を育成していく。

○「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか」の質問に対する肯定的回答率は92.4%で全国平均より5.3ポイント上回っている。今後も、教師だけに限らず、家庭と連携を取りながら児童に励ましの言葉をかけ、前向きに学校生活を送れるように支援していく。

●「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に対する肯定的回答率は76.1%で全国平均より3.7ポイント、「自分で決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問に対する肯定的回答率は81.5%で全国平均を5.7ポイント下回っている。今後は、様々な教育活動を通じて、夢や目標をもつことの大切さを感じさせたり、キャリアパスポートの活用等を図ったりして目標に向け努力させていく。

●「学校に行くのは楽しいと思えますか」の質問に対する肯定的回答率は80.4%で全国平均より5.0ポイント下回っている。今後は、学ぶことの楽しさを感じ取ることのできる授業を行ったり、学校行事や学年集会などを通して、相手を思いやりながら協力することや、みんなが一つの目標に向かって団結することのよさを実感させたりしていく。

宇都宮市立岡本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返りの充実	全ての学年で、岡本西小授業スタンダードを活用し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。	5年生までに受けた授業において、「課題解決に向けて、自分から取り組んでいたか」の肯定的回答率は76.1%であり、全国平均を1.2ポイント下回っている。また、「学習した内容について見直し、次時につなげているか」の肯定的回答率が78.3%であり、全国平均とほぼ同等であった。
豊かに表現する児童の育成	児童同士の関わり合いを大切にされた対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	5年生までに受けた授業において、「自分の考えをまとめる活動を行っていたか」の肯定的回答率が77.2%であり、全国平均を5ポイント上回っている。しかし、「友達との話合いの中で、自分の考えを深めたり、広げたりしているか」の肯定的回答率は78.3%であり、全国平均を1.8ポイント下回った。
家庭学習の定着	地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学習ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。	「放課後や週末に何をしておこなっているか」では、「勉強や読書」を選択した児童が60.9%と、全国平均を8.7ポイント上回った。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか」では、肯定的回答率が69.5%であり、全国平均を1.6ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語のA話すこと・聞くことでは、話合いの中で自分の立場を明確にし考えをまとめる問題、算数の変化と関係及びデータの活用では、比例の関係をを用いて未知の数量を求める問題と、表の全体と部分の関係に着目して数を求める問題で全国の平均正答率を下回った。	論理的思考力及び表現力の育成に努める。	国語では主張の理由や根拠をあげながら話したり書いたりする活動、算数では筋道を立てて説明する活動を継続して行う。 学習形態の工夫にとどまらず、発問や問いを工夫することにより思考が深まる学習活動を展開する。 「思考の言語化」を本校の学習指導に関する課題とし、日々の授業で指導していく。